

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第一回 建築・インテリア系教育課程編成委員会	
開 催 日 時	平成 27 年 7 月 17 日 (金) 15 時 30 分～17 時 30 分	
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール、11 階 1101 教室	
参 加 者	外部委員：5 名	内部委員・学内関係者：5 名
	<p><外部委員：6 名> (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照)</p> <p>大塚雄二 (一般社団法人建築家協会／大塚雄二都市建築設計事務所)</p> <p>可児才介 (一般社団法人建築家協会 東京建築士会副会長／可児アトリエ)</p> <p>樋口修 (東京商工会議所中野支部／株式会社ヒグチ設計)</p> <p>北川辰雄 (清水建設株式会社)</p> <p>中山聡 (前田建設工業株式会社)</p> <p><内部委員：4 名></p> <p>三上孝明 (専門学校東京テクニカルカレッジ 校長兼建築監督科 科長)</p> <p>白井雅哲 (同 企画部部長)</p> <p>野上和弘 (同 建築科科长、議長)</p> <p>高山寿一郎 (同 インテリア科科长)</p> <p>鈴木昇 (同 建築科夜間(建築士専科)科長、書記)</p> <p><欠席者：2 名></p> <p>霜野隆 (インテリアプランナー協会会長／株式会社レスト マムハウス事業部部長)</p> <p>宮脇伸歩 (株式会社 LIXIL プロダクツカンパニー デザイン企画部主幹)</p>	
会 議 録	<p><第一部 系別分科会> 15:30～16:00 B1F テラホール</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学園側関係者挨拶 専門学校東京テクニカルカレッジ校長 三上孝明 2. 委員のご紹介 3. 前回会議 (合同会議) 議事録確認 4. 平成 25 年度自己点検評価報告書の概要説明 5. 平成 26 年事業計画概要と取組み内容の説明 <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度学園組織変更・人事異動報告 ・職業実践専門課程「建築科夜間課程」認定報告 ・環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業、選択報告 ・教育訓練給付金制度 (専門実践教育訓練) 調査票、提出報告 ・リアルジョブプロジェクト、進捗報告 <p><第二部 系別分科会></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 議長挨拶 (野上) 2. 校長挨拶 (三上) 3. 委員のご紹介 4. 前回 (系別分科会) 議事録の確認 (白井) <p>本年度は 3 回の建築・インテリア系教育課程編成委員会を開催予定とし、3 回目には各科学生の優秀作品をご覧いただき、教育成果をご覧いただく予定であることを説明。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 意見交換と回答 <ul style="list-style-type: none"> ・今回は、建築科、インテリア科の実習授業についてご意見をいただきたい。(白井) ・まず、建築科の実習授業についてデータブック、作品集をもとに説明を行う (野上) <p><input type="checkbox"/> 即日演習の課題が多いようだが提出はできているのか (可児様)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手描きエスキス図面レベルで提出できている (野上) <p><input type="checkbox"/> 木造の設計時には伏図は描くのか。平面図から一連の流れで伏図まで描いた方がよいのではないかと (樋口様)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2 年次の 2 級建築士対策講座の製図の授業で伏図を書かせている (野上) ・作品提出時には各自にプレゼンテーションをさせている (三上) <p><input type="checkbox"/> 優秀作品以外の全体の作品のレベルはどうか。(可児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定のレベルの作品には仕上げられている。 <p><input type="checkbox"/> 2 年間での実習としては仕方がないが、大学教育のような実習の方法はどうか (大塚)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門学校の実習教育としては技術優先になるのは仕方がないと考えている 	

- 課題が多いが、一つひとつの課題の内容についてはどうなのか。(大塚)
- 就職後の新入社員の役割としては、どういう才能があるかを見ていくので、一つの課題を計画からプレゼンまで持っていかせた方がよいとおもうので、科をまたがない方がよいのではないか。(可児)
- カリキュラムとして講義内容と設計課題を関連付けているのはよいと考える。学生の成果については短期的ではなく長期的な視点で学生の成長を見てあげるべきではないか。
 - ・とびぬけた作品を作る学生も育てたい(三上)
- 即日演習は設計課題の間をつなぐものとして実施させている(鈴木)
- 即日演習は他の学生の様子を見ながら進められる点はよいと感じている(野上)
 - ・作品を完結させる能力を養う上では短期でまとめる課題は良いと思う(可児)
 - ・設計以外を希望する学生にとっての実習課題があってもいいと思う(北川)
- 施工管理について触れた授業は弱いところでもある(野上、三上)
 - ・2年間ではあるが、現場で活かせる知識を身に着けさせてほしい。(北川)
- 課題内容については良いと思うが、1級建築士の課題が難しくなっているのでレベルを上げざるを得ない。(樋口)
- 現在の大学教育では設計者を育てるためには6年間必要と考えている。大手設計事務所では大学院生しか採用していない。2年間の教育の限界か。(北川)

・今回は、インテリア科の実習課題の組み立てについて討議をお願いします。

6. 次回日程について(議長)

・平成27年11月20日(金) 15時30分～17時30分

7. 閉式の辞(議長)

以上